

# ESGミーティング

2022年12月9日

健康にアイデアを

**meiji**

第一部：プレゼンテーション

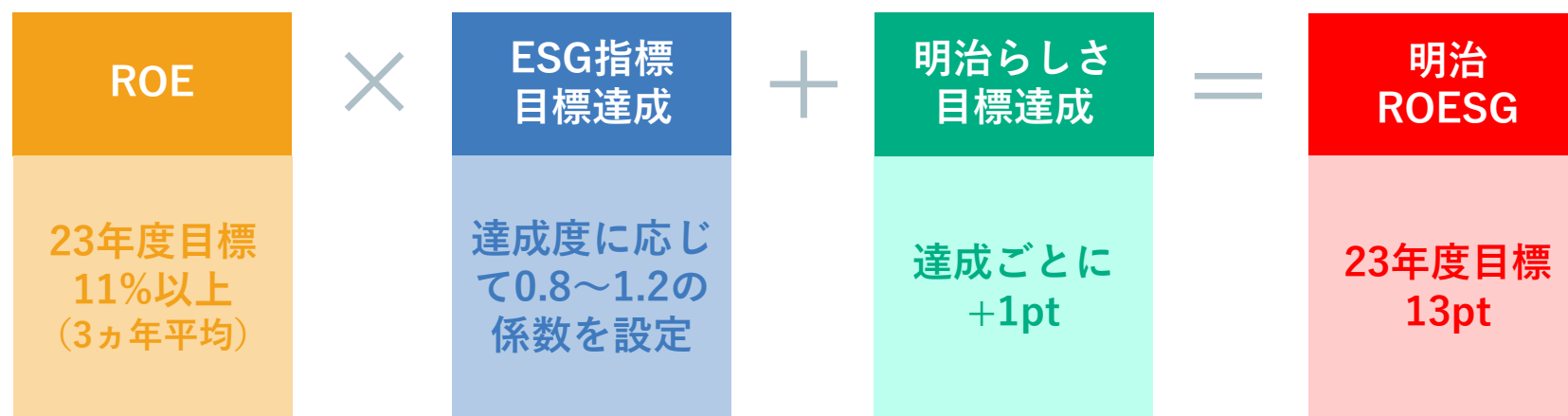
# 明治ROESG<sup>®</sup>経営の実践

■スピーカー

取締役専務執行役員CSO 古田 純

# 2023中期経営計画～明治ROESG®※経営の実践

ROE向上とESG強化を矛盾させることなく、  
ともに実現する経営への転換を目指す



- ① MSCI
- ② DJSI
- ③ FTSE4Good
- ④ CDP (Climate Change)
- ⑤ CDP (Water Security)

- ① 健康寿命延伸
- ② たんぱく質摂取量
- ③ インフルエンザワクチン接種率
- ④ 従業員エンゲージメントスコア
- ⑤ 健康志向食品、栄養付加価値型商品、超高齢化社会に貢献する商品の売上伸長率
- ⑥ 新型コロナウイルスワクチン・治療薬の開発成功と供給

## 明治ROESG®の進捗状況：ESG指標

総合評価としてのMSCI ESG Ratings・DJSI・FTSE4Goodと、環境にフォーカスしたCDPのレーティングを組み合わせ設定

評価指標	20年度	21年度	22年度	23中計目標
MSCI ESG Ratings	BB	BBB	12月頃発表	A
DJSI	80 <sup>パ</sup> -センチル	86 <sup>パ</sup> -センチル	12月頃発表	90 <sup>パ</sup> -センチル
FTSE4Good	3.0点	3.0点	3.7点	3.5点
CDP (Climate Change)	A-	A-	12月頃発表	A
CDP (Water Security)	A-	A	12月頃発表	A

- FTSEは23中計目標を達成 ⇒ E/Gの改善がスコアアップに大きく影響
  - ✓ 環境課題では水リスクへの対応や生物多様性への取り組みが前進
  - ✓ ガバナンスでは開示率の上昇が評価アップに繋がる

## 明治ROESG®の進捗状況：明治らしさ目標

2023中計で注力する領域と重なる社会課題と、企業活動を支える「人」の観点で6つを選択

項目	現時点での進捗	23年度目標
健康寿命延伸	+ 0.56年 ※1	+ 1年（16年比） ※1
たんぱく質摂取量	71.4g/1日 ※2	75g/1日
インフルエンザワクチン接種率	接種率 65.6% ※3	接種率 60%
従業員エンゲージメントスコア	偏差値B ※4	偏差値A
健康志向食品、栄養付加価値型商品、超高齢化社会に貢献する商品の売上伸長率	-3.1% ※5	+10%以上 (20年度比)
新型コロナウイルスワクチン・治療薬の開発成功と供給	開発中	開発と供給

- 政府や有識者などの啓発活動を背景に、インフルエンザワクチン接種率は上昇
- 従業員エンゲージメントは横ばい。引き続き、社内コミュニケーションや多様性の確保などの課題に取り組む

※1：2016年（男性 72.14歳／女性 74.79歳） ※2：2019年（最新データ）  
 ※3：2020年度（最新データ）65歳以上の定期接種対象者ベース  
 ※4：2022年度実績 ※5：2021年度実績（2020年度比）

## 本日のアジェンダ

1. 環境への取り組み
2. 持続可能な調達活動
3. ガバナンスのさらなる強化

# 1. 環境への取り組み

# 明治グループ長期環境ビジョン

## Meiji Green Engagement For 2050

地球環境が危機的な状況にある中で、明治グループが**地球とのエンゲージメント**を通じて将来にわたって**自然との共生**を図ることで、**持続可能な地球環境の実現**に貢献する。



### 気候変動

サプライチェーン全体で温室効果ガス排出量をゼロにする「カーボンニュートラル」の実現



### 水資源

原単位での水使用量を半減  
製品原料に使用する水を100%還元(ウォーターニュートラル)



### 資源循環

廃棄物の実現ゼロエミッション  
使用する新たな自然資本の最小化



### 汚染防止

事業活動由来の化学物質による  
環境汚染ゼロを目指す



## 環境への取り組み～2022年度の進捗～

### ✓ CFP(カーボンフットプリント)算定開始 (4月)

CFP：商品のライフサイクルにおける各プロセスをCO<sub>2</sub>換算し「見える化」する仕組み

### ✓ 「生物多様性のための30by30アライアンス」に参画 (4月)

30by30アライアンス：2030年までに世界の陸海域30%を保全・保護する目標達成を目指す有志連合

### ✓ 自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)フォーラムに参画 (5月)

生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価・開示するためのフレームワークを構築するビジョンに賛同し、TNFDフォーラムに参画

### ✓ 「RE100」対応の工場が2工場に増加 (6月)

再エネ電力比率：21年度約5.3%、22年度約10%見込。対KPIで順調に進捗

### ✓ 「2050年カーボンニュートラル社会に向けて」ロードマップを策定 (8月)

明治グループにおけるCO<sub>2</sub>排出量(スコープ1,2,3)削減の具体的なロードマップを策定

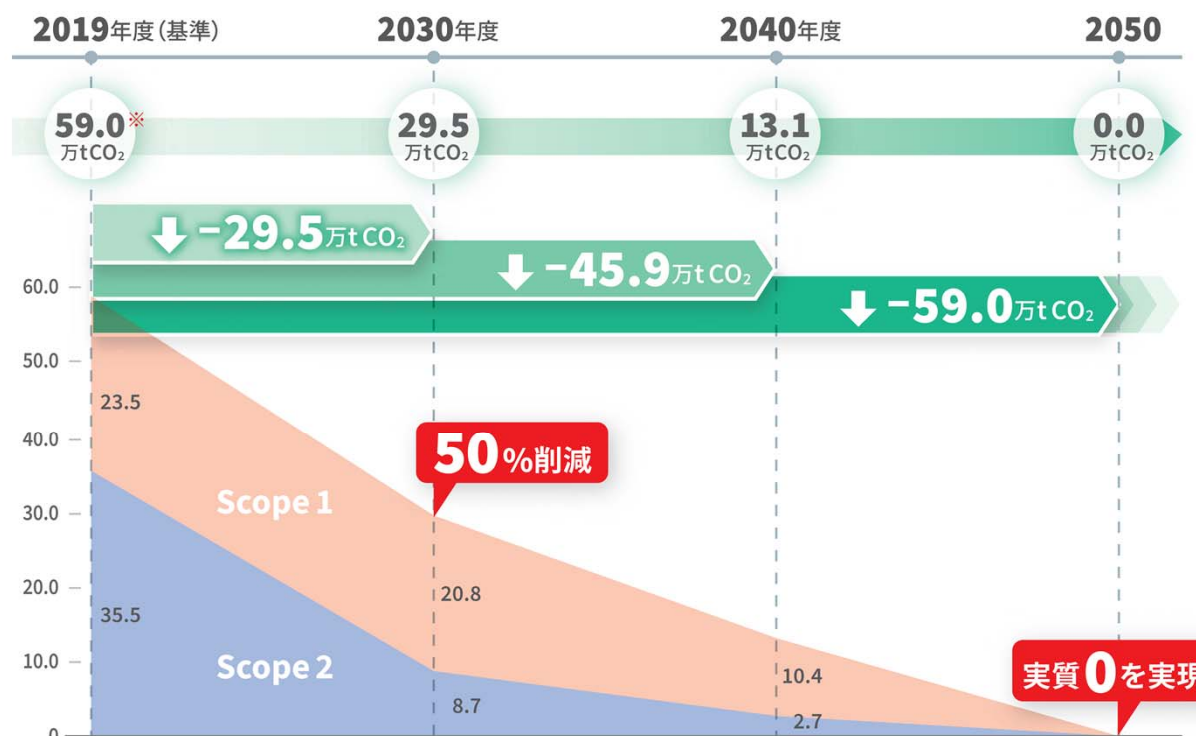
### ✓ 汚染防止ガイドラインの策定 (11月)

大気・水質・土壌の汚染防止のために環境関連法令遵守を基本とする行動指針を策定

# 2050年カーボンニュートラル社会に向けて

**Scope1,2目標**：2030年度までに50%削減、2050年には実質ゼロ  
**Scope3目標**：2030年度までに30%削減、2050年には実質ゼロ

※いずれも2019年度比



【試算条件】

KPI再エネ電力比率2030年度50%、電力CO<sub>2</sub>排出係数はIEAの2050年ゼロシナリオに基づく。SBT認定の数値

※ SBT認定の基準年度排出量は、2019年度のCO<sub>2</sub>排出量 (Scope1, 2) から車両に関わるCO<sub>2</sub>排出量を除いた数値

## ● Scope1,2

- ✓ 省エネルギー設備の導入
- ✓ 低CO<sub>2</sub>排出燃料への転換
- ✓ 太陽光発電設備の導入
- ✓ 再生可能エネルギー由来電力の購入

## ● Scope3

- ✓ 原料・包材サプライヤーなどの取引先との協働
- ✓ 主要な取引先とのエンゲージメントの推進



# 動画視聴（約6分）



## CFP導入でGHG※<sup>1</sup>排出量を見える化し 自社を含めたサプライチェーン全体での環境への影響を把握

### チョコレート

- 国内でのCFP普及を目的とした環境省のモデル事業に2022年7月に採択
- 国際標準である「ISO14067」を参照して算定
- 2022年度は、市場浸透状況や売上規模を踏まえ、「明治ミルクチョコレート(板)」でCFP算定を実施

### 牛乳

- 国際基準であるEPD※<sup>2</sup>や国際酪農団体IDF※<sup>3</sup>のルールを参照した算定式の策定と商品の算定を実施

➡ 今後、GHG排出量など課題感に準じてCFPの算定対象を拡大

※1：Greenhouse Gas（温室効果ガス）

※2：Environmental Product Declaration（環境製品宣言）

※3：International Dairy Federation（国際酪農連盟）

# 酪農・牛乳におけるGHG削減の取り組み



3つの視点で検討し、GHG排出量の削減と持続可能性を追求推進



CFP算定方法策定と  
一部商品の算定開始

協業等を踏まえた  
GHG削減

- ・糞尿由来の一酸化二窒素
- ・呼吸由来のメタン 等

カーボンプレジットを  
活用した価値化



## 容器包装のプラスチック使用量は順調に削減

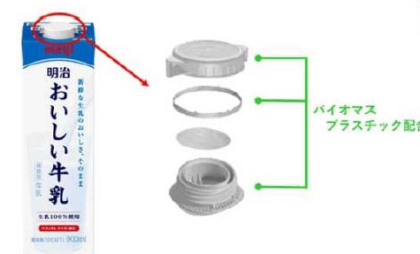
削減率の推移

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2023中計目標	2030年度目標
基準年	8.2%	9.8%	11.7%	16.0%	15.0%	25.0%

### プラスチック使用量の削減

- プロビオヨーグルトR-1：ラベルレスボトル（22年9月全国発売）
- 十勝ヨーグルト4連：PSP<sup>※1</sup>カップの軽量化（22年10月切替開始）
- エッセルマルチ：PP<sup>※2</sup>カップの紙化（22年3月切替開始）

※1：Polystyrene paper（発泡スチレンシート） ※2：Polypropylene（ポリプロピレン）



### サステナブル素材の使用拡大

- おいしい牛乳：キャップや注ぎ口にバイオマスプラ使用（22年7月切替）
- 宅配専用小型PET飲料：再生プラ使用（22年7月発売）



食品ロス・廃棄物削減の推進を強化し、  
社会課題となっている国内年間522万トン※の食品ロス削減に貢献

## 賞味期限の年月表示への変更

賞味期限が1年以上の家庭用商品  
約120品を「年月日」から「年月」  
へ変更（20年2月～）

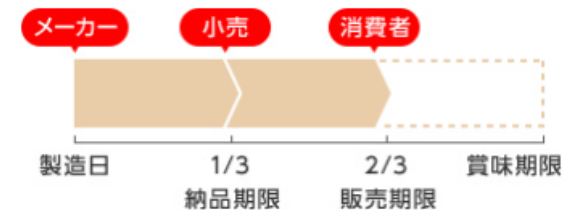
## 品質を保持した賞味期限の延長

菓子・飲料・栄養食品・調理食品  
の一部商品の賞味期限を延長し、  
賞味期限切れによる廃棄物を削減



## 賞味期限1/3ルールの見直し

製造業者・販売業者・消費者が賞味期限  
までの期間を1/3ずつ分け合う  
商習慣の緩和



## 関連団体との協働

- 全国フードバンク推進協議会との連携による商品・災害時備蓄品の寄贈
- 国連WFPとの連携による「ごちそうさまチャレンジ」への協賛

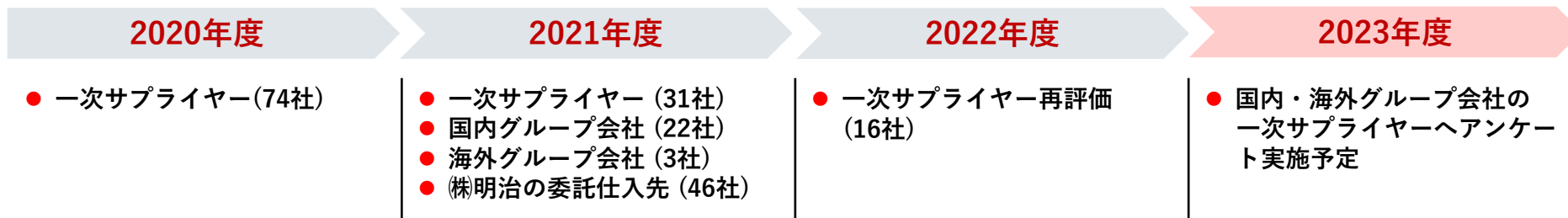
## 2. 持続可能な調達活動



# 持続可能な調達活動／ 責任あるサプライチェーンの構築



## (1) サステナブル調達アンケート実施状況



※アンケート方法：EcoVadis、明治オリジナル版

## (2) エンゲージメントの実施

対象企業と個別にエンゲージメントを実施し、課題解決に繋げる

目的	対象企業
連携強化・協働による 社会課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主要原材料サプライヤー (7社)</li> </ul>
連携強化による改善促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケート低評価サプライヤー (5社)</li> <li>● アンケート低評価グループ会社 (3社)</li> </ul>

※第一回実施済

# 持続可能な調達活動



森林減少や児童労働など社会課題が懸念される原材料において「持続可能な調達」「責任あるサプライチェーンの構築」を推進

## カカオ

- 持続可能なカカオ豆生産の実現に向けて、2026年度までに「サステナブルカカオ豆」の調達比率100%を目指す  
→ 2021年度調達比率：42%

## 生乳

- MDA (Meiji Dairy Advisory) を通じた酪農家とのパートナーシップ強化
- アニマルウェルフェアへの取り組みとして、ポリシーの制定やNGOとのエンゲージメント実施

## パーム油

- 2023年度までにRSPO認証油100%切替を目指す
- 国内外24工場でのRSPOサプライチェーン認証取得
- パーム油搾油工場までのトレーサビリティ確保

## 大豆・砂糖

- 社会課題の整理等を踏まえ調達ガイドライン策定検討中

## 3. ガバナンスのさらなる強化

## 第三者評価機関による取締役会評価の導入

自己評価（毎年実施）に加え、新たに第三者評価機関評価を実施する方針に変更（3年に1回程度）

### 2021年度の実績

- コーポレートガバナンス・コード改訂に対する当社の対応は取締役会で充実した議論がなされている
- 取締役会の実効性向上に向けたモニタリングの強化は一部の項目で改善の余地がある

### 2022年度の取り組み

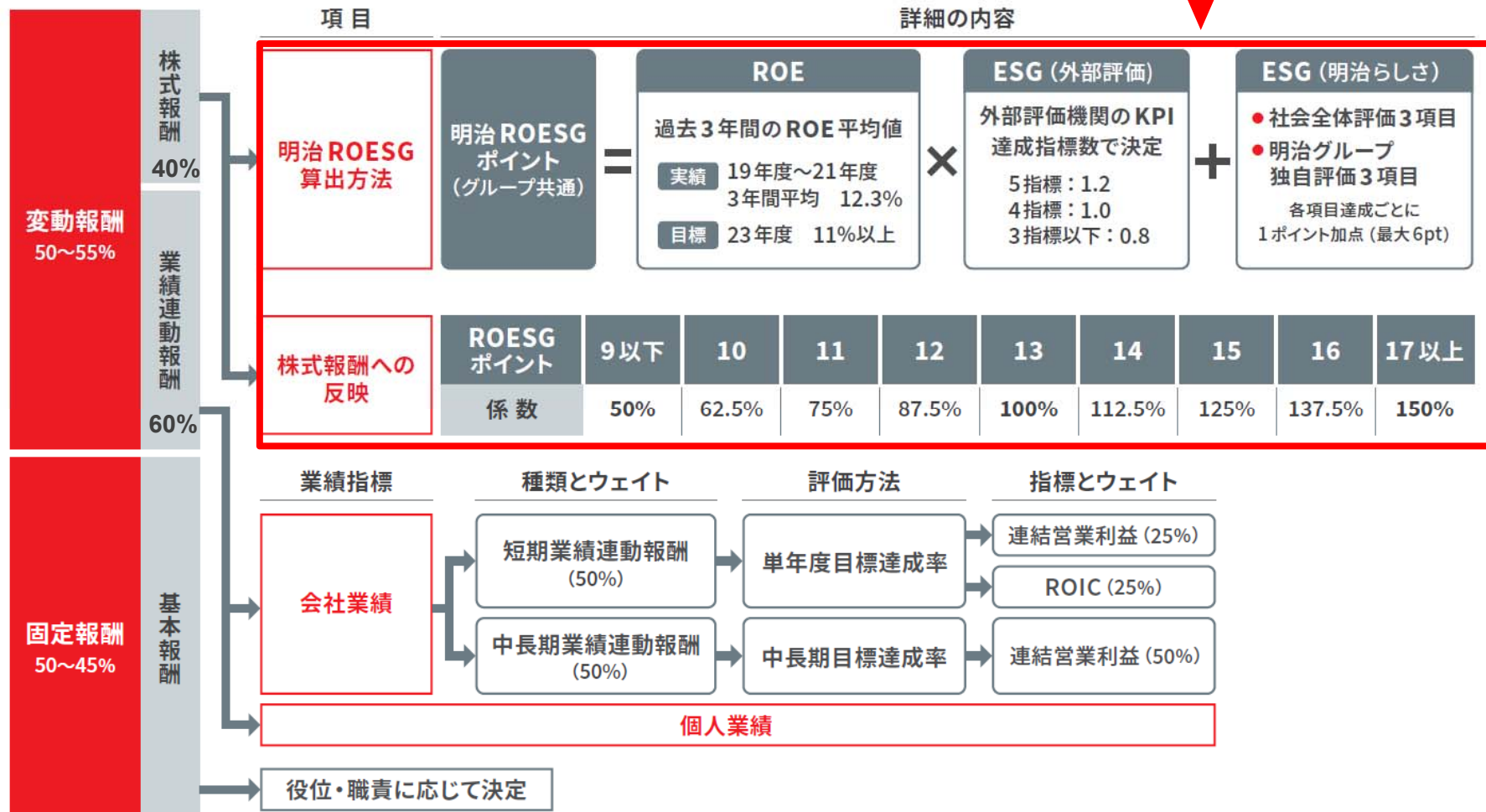
- 中期経営計画の重点課題における具体的な成果・進捗状況についてのモニタリング強化
- 次期中期経営計画の策定を通じた取締役会における中長期視点での議論の深化
- 取締役会で集中して議論を行えるような議題の選定および運用の向上

第三者評価機関からの提案：  
取締役会の実効性向上のために検討すべきポイント

- 取締役会における中長期の議論
- 取締役のサクセッションプラン
- 取締役会の在り方・構成に関する検証

# 役員報酬／明治ROESGとの連動

報酬に占める明治ROESGの影響度：20～22%



健康にアイデアを

**meiji**

第二部：対談

# 利益成長とサステナビリティ活動の 同時実現に向けて

■スピーカー

代表取締役社長CEO 川村 和夫

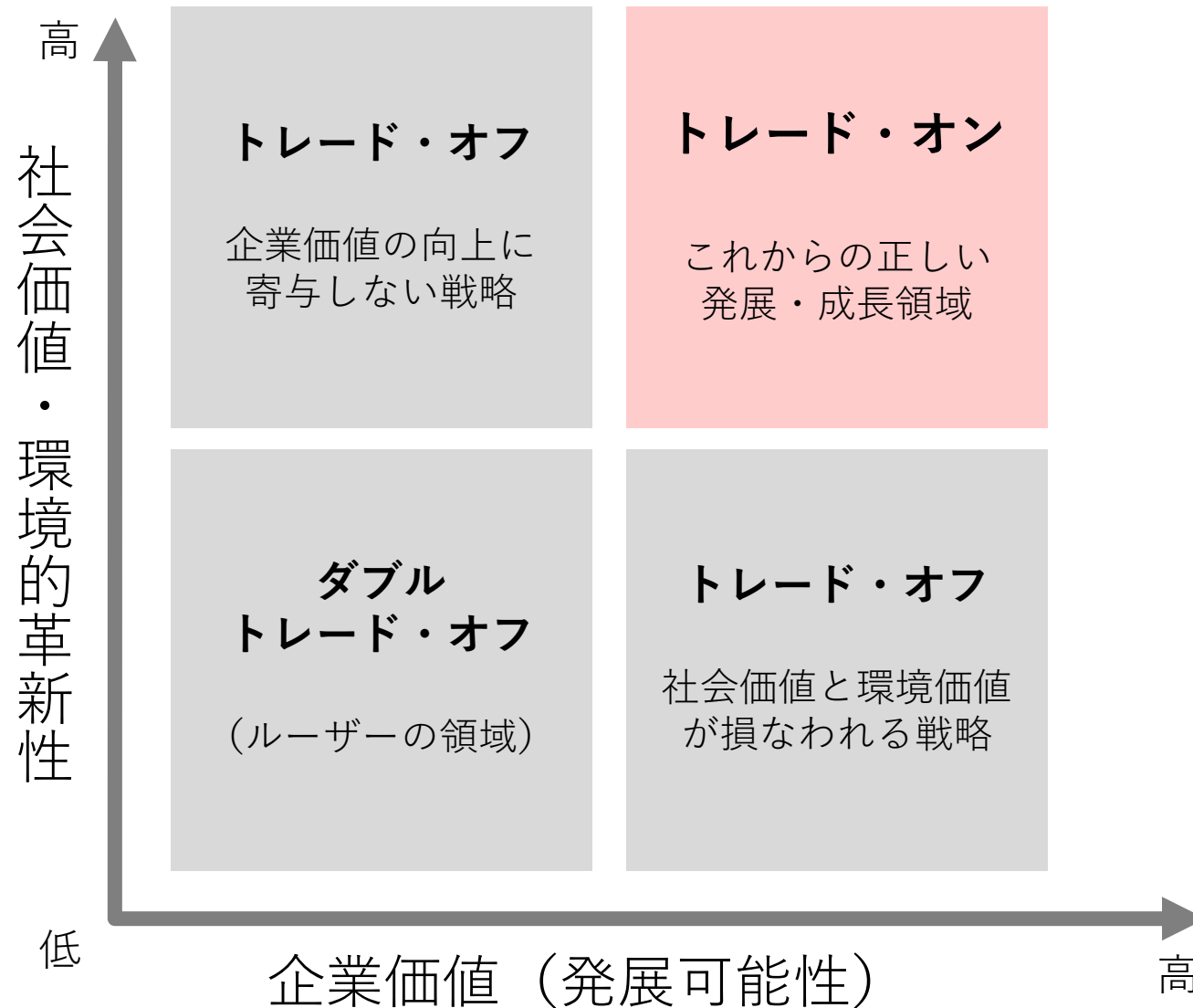
社外取締役 ピーター D. ピーダーセン

## ピーター D. ピーターセン 社外取締役 略歴

- 1967年11月 デンマーク生まれ（55歳） ※日本在住約30年
- 2000年9月 （株）イースクエア 代表取締役社長
- 2015年1月 一般社団法人NELIS 代表理事
- 2020年8月 特定非営利活動法人ネリス 代表理事（現任）
- 2021年6月 （株）丸井グループ 社外取締役（現任）
- 2022年6月 当社社外取締役（現任）  
※当社「ESGアドバイザーボード」メンバー

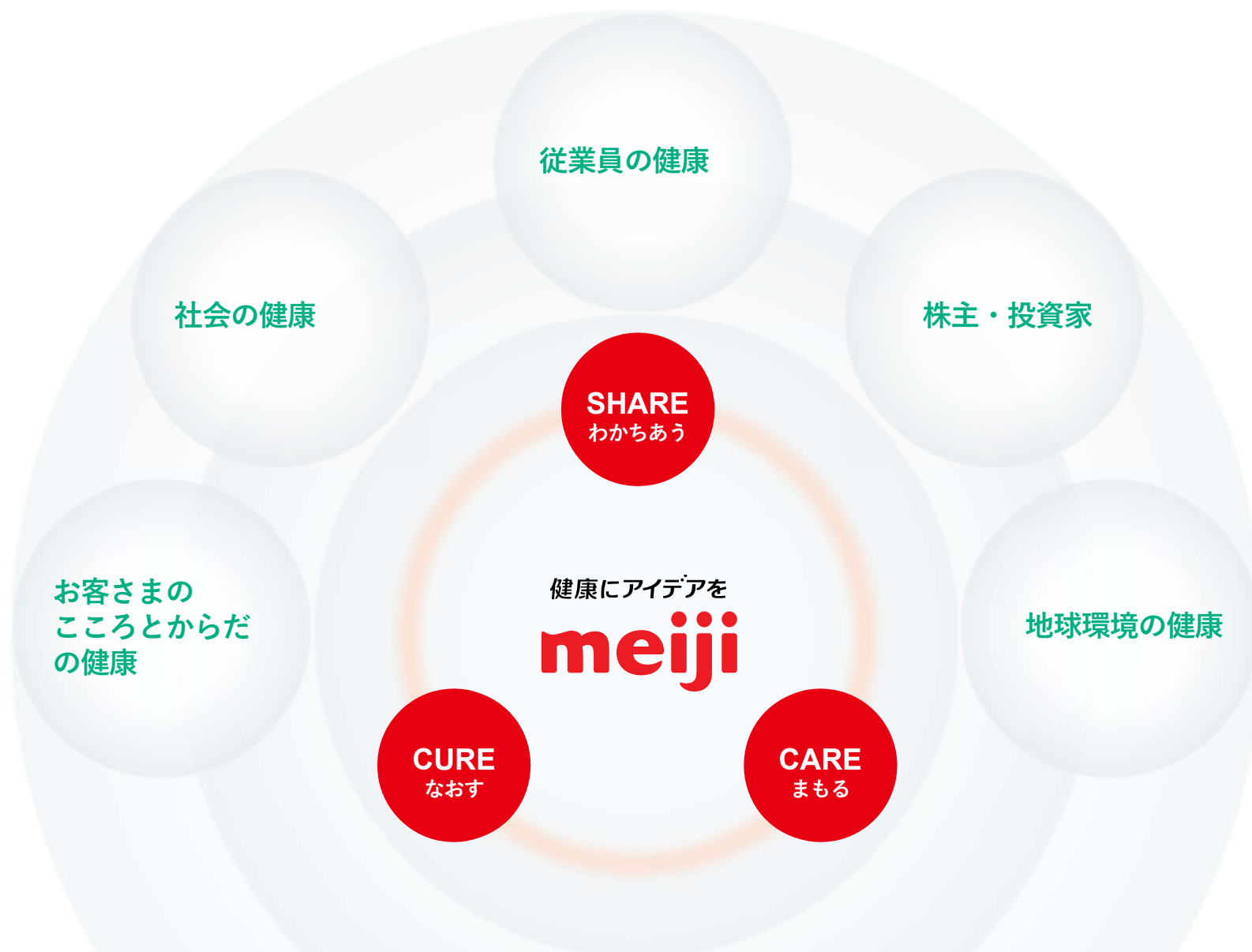


# 利益成長 vs サステナビリティ？





# 「meijiらしい健康価値」の実現



## Meiji版 栄養プロファイリングシステム(NPS)\*の開発

「栄養報国」を創業の精神として掲げてきた明治グループとして  
“栄養”をテーマに、事業活動を通じた社会課題の解決に貢献する

明治栄養ステートメント

POLICY 明治の栄養について考え方の軸・方向性の提示

「meiji NPS」

STRATEGY NPSを一つのモノサシとし商品の特性を把握

具体的なアクション

ACTION 明治の栄養の実現に向けた活動の実施



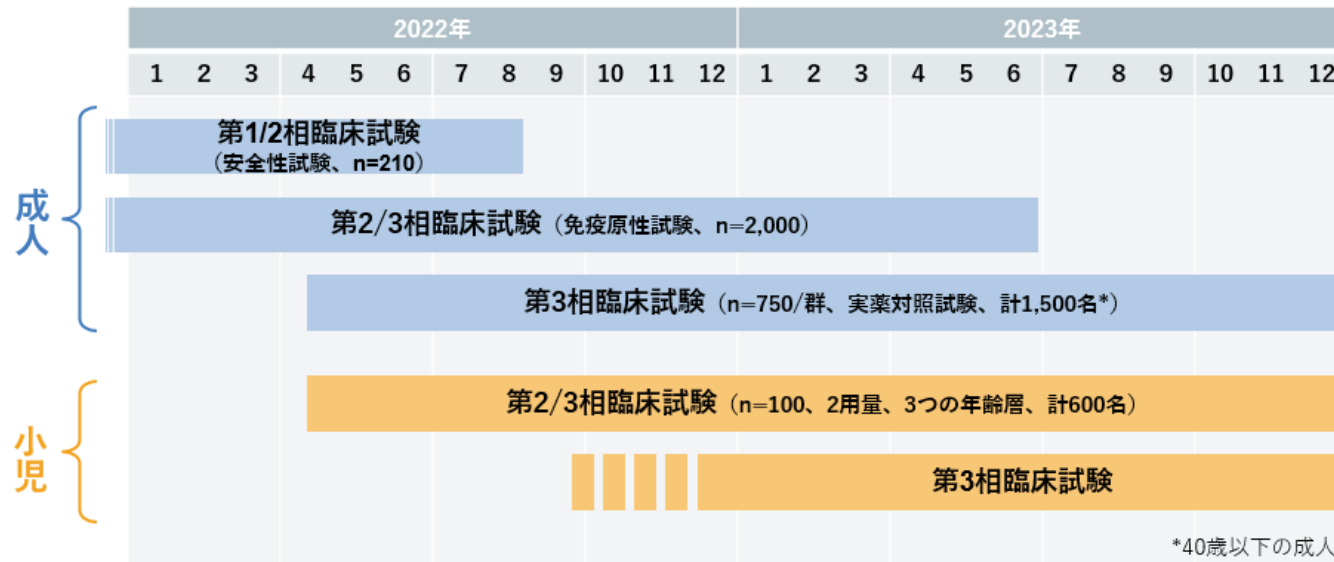
「明治らしい」社会変容  
「お客様のところとからだの健康」  
SDGsのGoal 3への貢献

明治の会社変容  
meijiブランドの向上 (meiji = 健康)  
→売上、利益の向上

※NPS (Nutrition Profiling System) : 食品を栄養の観点で評価し、制限/推奨すべき栄養素/食素材等の量から評価するシステム

## ワクチンの研究開発

### (1) COVID-19に対する不活化ワクチン（KD-414）の開発



### (2) 5種混合ワクチン（KD-370）の開発

➤ 2022年4月に承認申請

### (3) 痘そうワクチン（国有品）の適応拡大

➤ 2022年7月に「サル痘の予防」に関する効能・効果追加の承認を取得

### (4) 次世代mRNAワクチン（ARCT-154）の研究開発

➤ レプリコンワクチン※の日本における製造販売に関して協議中

※レプリコンワクチン：接種後に抗原タンパクをコードするmRNAが細胞内で複製され、持続的に抗原タンパクがつくられるワクチン。接種量が少なく、ワクチンの効果が長く持続することが期待される

# 明治グループのサステナビリティ活動

## 外部評価機関によるESG評価

評価指標	20年度	21年度	22年度	23中計目標
MSCI ESG Ratings	BB	BBB	12月頃発表	A
DJSI	80パーセンタイル	86パーセンタイル	12月頃発表	90パーセンタイル
FTSE4Good	3.0点	3.0点	3.7点	3.5点
CDP (Climate Change)	A-	A-	12月頃発表	A
CDP (Water Security)	A-	A	12月頃発表	A

# 健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。